

災害廃棄物処理計画に対するご意見の要旨と区の考え方

ご意見	区の考え方
「片付けごみ」の収集・運搬について	
<p>片付けごみが出た場合、「自主撤去」して「地区仮置場」へ区民が運ぶことになっている。片付けや運ぶことができない一人住まいの高齢者、身体不自由者、病人、夫婦二人住まいでもそれができない高齢者等の片付けごみは誰が手伝えるのかはっきり決めておく必要があると思う。ボランティアに依存しようにも災害時にボランティアをする余裕がないのではないか。</p>	<p>災害時には、町会や地域の方々同士が助け合う「共助」の考え方が重要であり、大切であると考えております。「自助」「共助」「公助」の考え方については、今後とも周知に努めてまいります。また、災害ボランティアに関しましては、発災後に募集を行います。災害ボランティアによる片付けごみの収集および運搬の手伝いについても速やかに活用できるように努めてまいります。</p>
品川区災害廃棄物処理計画(素案)について	
<p>素案では仮置場を区内の全公園とすることが中心ですが、公園は発災直後に区民避難所に辿り着けない方、区民避難所の人数制限に溢れてしまった方たちがテントやバラックを持参して泊まることが予想できる。それにも関わらず、仮置場設置を優先して災害弱者の区民を見捨てて強制退去させるには無理があると感じる。パニックに陥っている区民が希求するのは、守られ優先されているという期待感ではないでしょうか。被災住民の生命と健康を守り、折れそうな心を支え不安を取り除くことこそ、区政が取り組む最優先課題だと思います。</p>	<p>仮置場は区内の全公園を対象として考えるものであり、全体の被災状況等から判断して仮置場とする公園を選定してまいります。区としては、災害時は区民の生命と健康が最優先であり、区民の心に寄り添えるように努めてまいります。</p>
災害廃棄物の出し方の周知方法について	
<p>被災者やボランティアの方々が「どのように廃棄物を分別するのか」を大きな文字で分かりやすく記載した「大きなプラカード」を事前に作成し、それを町会会館等に保管していただき、災害発生直後に掲示して区民が今やること、次にやることを「導く」のはどうか。</p>	<p>災害時に区民の混乱を少しでも減らすため、災害廃棄物の出し方については、様々な媒体を活用するなど、周知方法を工夫してまいります。啓発・広報活動を通して、災害廃棄物の出し方の周知に努めてまいります。大きなプラカードを用いての災害廃棄物の出し方の周知につきましても、貴重なご意見として承ります。</p>